第３回　東京学芸大学ヒューマンライブラリー報告書

～「本」（ヒト）と出会う、世界と出会う～

2018 年 12 月 16 日（日）

作成：東京学芸大学ヒューマンライブラリー2018 実行委員会（代表：岡　智之）

2019 年 2 月

目次

はじめに 2
開催案内 3
企画概要 4
ヒューマンライブラリーチラシ 5
- 「本」のタイトル一覧（予定）　（下記の方々と 1 回 30 分、対話できます） 6

プログラム 7
ブックリスト 9
利用登録書 11
当日写真 12
当日までの活動 14
来場者数と内訳（利用者登録書情報） 15
読者から「本」へのメッセージカード 16
「本」アンケート集計結果 20
第 3 回　ヒューマンライブラリー実行委員会　反省会議 22
読者の感想文 24
スタッフの感想文 26

はじめに

2018 年 12 月 16 日（日）、第 3 回東京学芸大学ヒューマンライブラリーが開催されました。本年は、本との出会いで、世界が開かれるというコンセプトのもと、「本（ヒト）と出会う、世界と出会う」のテーマで開催されました。生きた「本」14 冊を迎え、計 43 名の参加者で、小規模ながら濃密な時間を持つことができました。例年のように、在日外国人、セクシュアルマイノリティ、障害者、教育支援者などの方々のお話を少人数で聞くことを通して、マイノリティへの理解と多様性を尊重する社会への形成へと何かしら役立つことができたのではないかと考えております。

本年は、日本ヒューマンライブラリー学会も 2 年目を迎え、研修会や研究大会などを行い、全国で、ヒューマンライブラリーを開催する気運が高揚しております。東京学芸大学ヒューマンライブラリーでも、今回は、株式会社 LILALICO の協賛を受けることができ、地域や企業との連携が進んできております。

第 3 回目のヒューマンライブラリーは、早めに「本」の確保ができていて、10 月段階ではほぼ全員のタイトルあらすじを公開することができる状態でしたが、スタッフを確保することが難しく、直前に 9 名のスタッフをやっと確保した状況でした。今年度は、5 月に清里で行われた国際交流合宿で、ヒューマンライブラリーを行い、10 月に学芸カフェテリアランチ講座で「ヒューマンライブラリーへの招待」という企画を行いましたが、やはり春学期段階から、体験会やミニヒューマンライブラリーなどを行い、スタッフと実行委員会の立ち上げを進めていくべきであったと思います。単に一年に一回のイベントではなく、恒常的になにかしらヒューマンライブラリーという名前を聞く、何かイベントが行われているというような状況を作っていく必要があるかと思います。

まだまだ反省点や課題の多いイベントでありますが、やはり継続してやっていくところに意義があるかと思います。今後も息長く、この取り組みを進めていきたいと考えておりますので、なにとぞ、ご協力、ご参加のほどお願いいたします。

2019 年 2 月 4 日

東京学芸大学ヒューマンライブラリー2018 実行委員会　代表　岡　智之

第 3 回東京学芸大学ヒューマンライブラリー
開催案内

ヒューマンライブラリー（人間の図書館）とは

ヒューマンライブラリーは、お互い異なる文化的背景や身体、考え方を持った人々を生きた「本」として迎え、「読者」との対話・交流を通じて、多様な生き方を認め合う、多様性に対して開かれた社会の実現を目指す試みです。2000 年にデンマークで始まり、欧州を中心に北米、オーストラリアなど世界各国で行われています。日本では、2008 年以来、駒澤大学、明治大学などの大学や様々な団体、個人により全国で行われ、東京学芸大学でも、2016 年以来、2 回ヒューマンライブラリーを開催しました。2017 年には日本ヒューマンライブラリー学会が創立され、2018 年に 25 名の実践者を著者とした包括的な著作も出版されました（下記参照）。ヒューマンライブラリーで「本」になってくださる方は、現在交渉中ですが、在日外国人、セクシュアルマイノリティ、障がい者、教育支援者など多種多様な方々を予定しています。なお、ヒューマンライブラリー開催理念から、本イベントはすべて非営利目的のボランティア活動です。「本」として、スタッフ（「司書」）として、また後援・協賛者として、本年もヒューマンライブラリーへのご協力をなにとぞお願い申し上げます。

参考文献：坪井健、横田雅弘、工藤和宏編著『ヒューマンライブラリー：多様性を育む「人を貸し出す図書館」の実践と研究』明石書店、2018

記

- 開催日時：2018 年 12 月 16 日（日）12 時半から 17 時半まで（12 時受付開始）
- 開催場所：東京学芸大学（東京都小金井市貫井北町４－１－１）（N 棟 3 階教室）
- 主催団体： 東京学芸大学ヒューマンライブラリー2018 実行委員会（代表：岡 智之）
- 後援：小金井市教育委員会（昨年度）・社会福祉評議会(昨年度)、日本ヒューマンライブラリー学会
- 協賛：東京学芸大学生活協同組合（昨年度）・教職員組合（昨年度）

協賛金寄付のお願い

本企画はすべてボランティアによって行われ、運営費を協賛金寄付によってまかないます。皆様方におかれましては、本イベント開催の意義にご理解いただき、協賛金寄付にご協力いただければ幸いです。なお、協賛団体・個人名等は、当日配布のプログラムに記載し、後日、開催成果報告をさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

記

寄付金額： 団体の場合（1 口 2 万円） 個人の場合（1 口 2 千円）
寄付いただきましたら、受領証をお渡しします。

企画概要

１．企画理念・目的

・生きている「本」と読者との対話を通して、多様な生き方を認め合う、多様性に開かれた社会の実現を目指す。

・差別や偏見のある社会に対して問題意識を持ち、すべての人が平和に暮らし、お互いを尊重しあえる社会の実現を目指す。

・将来、教員、教育支援者になる学生が、マイノリティや多様性を学ぶ場として位置づける。

・大学構成員、地域住民と「本」となるマイノリティなどの方を結び付ける試みとして開催する。

２．企画内容

在日外国人、セクシュアルマイノリティ、障がい者や教育支援者などに「本」として来ていただき、彼らの話を聞きたい方と引き合わせて、個人的体験などについて、約 30 分単位で数回語っていただく対話のコーナー（1 人につき１～５人の聞き手）を作ります。講演などと違い、面と向かって自由に対話ができることがヒューマンライブラリーの特徴です。

３．本イベントの主たる対象者

東京学芸大学の教職員、学生、そして地域住民をはじめ、基本的に、本イベントの趣旨にご賛同いただける方なら、誰でも参加できます。

４．「本」としての協力予定者

現在、候補者をあげて、交渉の最中ですが、最終的に 15～20 名程度の協力者を確保する予定です。

５．開催費用

準備過程での費用は、スタッフのボランティア活動によります。「本」としての参加協力者も、基本的にはボランティア参加を条件とします。ただし、当日の昼食と交通費（程度の謝金）は主催者が用意します。終了後、「本」、「読者」、スタッフによる交流会を開催します。

６．開催費用の収集方法

協賛団体の協賛金・個人の寄付。

７．注意事項

ヒューマンライブラリー開催の理念により、特定団体の宣伝や営利目的で開催することはできません。従って、本イベントも営利目的や宣伝目的での参加はご遠慮願います。

８．連絡先　：東京学芸大学留学生センター　岡　智之研究室（N 棟２F）

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町４－１－１

Tel&Fax. 042-329-7235　e-mail: okatom@u-gakugei.ac.jp

第３回　東京学芸大学

ヒューマンライブラリーチラシ

「本（ヒト）」と出会う、世界と出会う

ヒューマンライブラリーは、在日外国人、障がい者、セクシュアルマイノリティ、教育支援者など、生きている「本」と「読者」との対話を通して、多様な生き方を認め合う、多様性に開かれた社会の実現を目指すイベントです。「本」との出会いで、世界が開かれるというコンセプトのもと、「「本（ヒト）」と出会う、世界と出会う」を本年のタイトルとしました。是非お気軽にお読みにいらしてください。（「本」のタイトル、あらすじは、Facebook ページ「東京学芸大学ヒューマンライブラリー」で公開中です。）

12 月 16 日（日）12:30～17:30(受付 12 時開始)

会場：東京学芸大学　N 棟 3 階教室（受付：N313）

主催：東京学芸大学ヒューマンライブラリー2018 実行委員会（代表：岡　智之）

後援：小金井市教育委員会・社会福祉協議会、日本ヒューマンライブラリー学会

協賛：東京学芸大学教職員組合, 株式会社 LITALICO

問い合わせ先：東京学芸大学留学生センター　岡　智之研究室（N 棟２F）

第３回　東京学芸大学ヒューマンライブラリー開催スケジュール

日時･場所：2018 年 12 月 16 日（日）12 時受付開始（N 棟 3F）

対話時間：12:45 から 30 分ごとに、15 分休憩、全 5 回

全体交流会：16:30-17:30

- **「本」のタイトル一覧（予定）　（下記の方々と 1 回 30 分、対話できます）**

作者名	カテゴリー	タイトル
長谷川留理華	ロヒンギャ	迫害にもいじめにも負けないから今ママになれた
アミール	ムスリム留学生	イスラム教・ムスリムとは何か
みなみ　みち＆アイリーン	日本語教室／外国人支援	小さい日本語教室から見えた日本に住む外国人の悲喜こもごも
万里	X ジェンダー	『Ｘジェンダー』男寄り中性の場合
ゆうと	ゲイ	教室だけじゃない～とあるゲイの先生の話～
畑野とまと	トランスジェンダー	トランスジェンダー活動家です♪
Hillary	発達障害 LGBT ダブルマイノリティ	第一話：[有名国立大学大学院生×学習障害]＋[トップアスリート×運動障害]＝ 第二話：[身体性は男性、性自認は女性のトランスジェンダー]＋[レズビアン]＝
山口　通	視覚障害	障碍から「障生（しょうせい）」へ
堀口　昂誉	ろう者、手話	日本の超少数民族？～ろう文化～
やすよ＆きま	双極性障害、ADHD	持ちつ持たれつ～アクセル＆ブレーキの関係
小山祐介（コヤ）	鬱（うつ）	どんな生き方もあっていい～うつで悪いか～
こばやしたくや	児童発達支援	学校/園を外から支える
瀬川　知孝	学校外の教育支援	教育と福祉の真ん中で働く－ユースワークとは何か？

＊詳しいあらすじは、Facebook ページ「東京学芸大学ヒューマンライブラリー」で公開中です。

第３回　東京学芸大学　ヒューマンライブラリー
～「本（ヒト）」と出会う、世界と出会う～
プログラム

日時：2018 年 12 月 16 日（日）12 時半～17 時半（12 時受付開始）
場所：東京学芸大学　N 棟 3 階教室（受付：N313 前）

ごあいさつ

本日は、「東京学芸大学ヒューマンライブラリー」にお越しいただきありがとうございます。
ヒューマンライブラリーは、2000 年デンマークで開催されて以来、現在までに 70 ヵ国以上で開催され、わが国でも全国的に行われている多様性理解のイベントになっています。第 3 回は、「「本」（ヒト）と出会う、世界と出会う」をテーマに、15 冊の「本」の方を迎えて、開催することになりました。本日は、「生きた本」との対話を心ゆくまでお楽しみください。

主催者一同

主催：　東京学芸大学ヒューマンライブラリー2018 実行委員会（代表：岡　智之）
後援：　小金井市教育委員会・社会福祉協議会、日本ヒューマンライブラリー学会
協賛：　東京学芸大学教職員組合、株式会社 LITALICO
お問い合わせ先：　東京学芸大学留学生センター　岡　智之（〒184-8501　東京都小金井市貫井北町 4-1-1）
電話＆Fax：042-329-7235 / e-mail：okatom@u-gakugei.ac.jp
スタッフ：吉田香、多々良幸子、山田茉由子、奥田木の実、塚田昭子、賈世萍、武雅雯、池田薫、中村優希

★　当日カンパも受け付けております。よろしくお願いいたします。

ご利用手順

1. 裏面の「利用上のお願い」をお読みいただき、ご同意いただける場合、「利用登録書」に必要事項を記入いただきます。
2. 次に、ブックリストとタイムスケジュールを参照の上、本日借りたい「本」の番号・名前と時間帯を記載し、貸し出しカウンターにお渡しください。「予約票」をお渡しします。
3. 予約された時間帯の 5 分前までに、対話の部屋のコーナーの指定の机（「本」の名前が表示されています）までお越しください。
4. 対話の時間は、30 分です。終了 5 分前にタイムキーパーが連絡いたします。終了時間が来ましたら、それ以上質問などなさらずに、すみやかに終了ください。終了後、「本」の方へのメッセージをお書きになり、直接「本」の方にお渡しください。
5. 対話以外の時間は、N304A の読者コーナーにておくつろぎください。
6. 16 時 30 分から N313 で、本の方・読者の方・スタッフの交流会を行います。よろしければご参加ください。

利用上のお願い

1. 「本」の方を傷つけるような言動をしないでください。「本」「読者」「スタッフ」に対する迷惑行為が見られた場合、退場していただく場合があります。
2. 主催者並びに「本」及び同席者に無断で、写真撮影や録画、録音はしないでください。
3. 「本」の方の個人情報を許可なく、ネットや印刷物にして公開しないでください。
4. 「本」の方の身体的・精神的都合で閲覧中に貸し出し中止になることもあります。
5. スタッフ及びメディアが写真撮影や取材に伺うことがあります。写真に映ることや取材を避けたいという方は受付（又はその場）でお申し出ください。

ヒューマンライブラリー2018　タイムスケジュール

教室/机番号	作者名	第１回 12:45-13:15	第２回 13:30-14:00	第３回 14:15-14:45	第４回 15:00-15:30	第５回 15:45-16:15	交流会 16:30-17:30
N310①	長谷川ルリカ	○	○	○	—	○	○
多目的室②	アミール	○	○	—	○	○	○
情報演習③	堀口昂誉	○	○	○	—	○	○
図書室④	やすよ＆きま	○	○	—	○	○	○
N312⑤	Hillary	○第一話	○第一話	○１人	○第二話	○第二話	○
N313⑥	万里	○	—	○	○	○	—
N313⑦	ゆうと	○	○	○	—	○	○
N313⑧	畑野とまと	○	○	○	○	—	○
N313⑨	山口通	○	○	—	○	○	○
N304⑩	みち＆アイリン	○	○	○	○	—	—
N304⑪	こばやしたくや	○	—	○	○	○	○
N304⑫	小山祐介	○	○	—	○	○	○
N304⑬	瀬川知孝	○	○	○	—	○	○

＊　会場配置図　(N 棟３階)

ブックリスト

作者名	カテゴリー	タイトル	あらすじ
①長谷川留理華	ロヒンギャ	迫害にもいじめにも負けないから今ママになれた	私はミャンマーのアラカン州（ラカイン州）で生まれたロヒンギャ民族で、3歳までアラカン州に暮らしていました。父はアラカン州の公立学校で高校教師を務めていました。1988年、ミャンマー全国で暴動が起き、たくさんのロヒンギャ民族が拘束されたり、殺害されたりしました。その後、私が暮らす村にも、軍が父を探しに来ました。ロヒンギャの教師はほとんど拘束されました。父は国内で身を隠すのは限界があると考え、日本へ行きました。その後の人生について。
②アミール	ムスリム留学生	イスラム教・ムスリムとは何か	私はインドネシアから来た大学の研究生で、イスラム教徒である。「イスラム教・ムスリムをどう思うか」と聞かれたら、日本の方の多くは「中東、怖い・厳しい宗教、テロ」などを思い浮かべるだろう。このような偏見を作り出す原因は何かと訊かれると、多くのムスリムがメディアを責める。しかし私は、このような偏見を生み出すのは人間の本能だと思う。人間は未知のものを警戒する傾向にあり、そういったものから距離を置こうとするのだと私は考える。在日ムスリムとして、偏ったイスラム教観とどう向き合うか・解決する方法はあるのかについて、ぜひお話しさせて頂きたい。
⑩みなみみち＆アイリーン	日本語教室と外国人支援	小さい日本語教室からみえた日本に住む外国人の悲喜こもごも	軽い気もちで始めた日本語を教えるボランティア。あっという間に２０年。その中で、彼らが日本語がわからない、ということ以上に日本の学校や仕事といった生活の中で、知らなかったり、経験したことのないことでつまずいたり自信を無くしたりしていることに気が付きました。教室では日本語の勉強以外にそうした相談に乗ることが多いです。そんな事例を紹介しつつ、「隣の外国人」と私の学んだ事をお話ししたいと思います。（学習者のアイリーンさん（フィリピン人）も来る予定です。）
⑥万里（ばんり）	Ｘジェンダー	『Ｘジェンダー』男寄り中性の場合	小さい頃のことから、Ｘジェンダーと自認した今までの気持ちの変化、社会や外に出て辛かったことから良かったこと、ざっくばらんにお話できたらと思います。性別は２つだけじゃない、恋愛だってきっと自由だということを伝えたいです。
⑧畑野とまと	トランスジェンダー	トランスジェンダー活動家です♪	ＬＧＢＴという言葉がメディアでもよく取り上げられるよう になりましたが、その一番後ろについているＴの事をご存じでしょうか？私が、なぜＬＧＢＴではなく、トランスジェン ダー活動家として 20 年以上やっているかをお話します。
⑦ゆうと	ゲイ（男性同性愛者）	教室だけじゃない～とあるゲイの先生の話～	「クラスに１人以上いる」といわれる LGBT の子どもたち。この２，３年で教育現場では「LGBT の子どもたちへの対応が急務である」という認識が広がっています。しかし、「職員室」はどうでしょうか。「教室」で授業を受けていた LGBT の子どもたちの中にも教員になる人がいます。この本は「教室」から「職員室」で過ごすようになった、とあるゲイが同僚や保護者、そして生徒と関わる中で感じた「葛藤」と「生き方」のお話です。
⑨山口　通	全盲の元高校教員	障碍から「障生（しょうせい）」へ	41 歳の時、難病により、中途失明。心の葛藤、世間のスピード、職場でのパワハラ→同僚、先輩、障碍者、親友と御相談→リハビリへ向かう。 障碍の言葉にも、触れます。
③堀口	ろう者、手	日本の超少数民族？	聞こえる人たちの生活と『音』は切り離せないものだと思います。電話、目覚まし、テレビ、操作音、サイレンなどたくさんの音声情報が街に存在します。音が生活の中心ではな

昂誉	話	～ろう文化～	い。そのろう者たちの文化とは？いつの時代にもその文化を受け継ぐものたちが生まれ、世界各国にも存在し続けるその少数民族とは？日本語と同じように言語として存在する手話の世界も紹介します。
④やすよ&きま	双極性障害、ADHD	持ちつ持たれつ～アクセル&ブレーキ～の関係	アクセル全開、たまにエンストする"やすよ"は、ADHD×双極性障害。臨機応変にブレーキをかけられる"きま"は、障害を本やインターネットで調べて理解した訳ではない。アクセルもブレーキも大事に使う、会社の先輩と後輩。 生い立ちも、思考回路も、得意な事もちがう二人がわかりあえた理由とは。
⑤Hillary	発達障害、ＬＧＢＴ、ダブルマイノリティ	第一話：[有名国立大学大学院生×学習障害]＋[トップアスリート×運動障害]＝ ～・～・～・～ 第二話：[身体性は男性、性自認は女性のトランスジェンダー]＋[レズビアン]＝	第一話のあらすじ：「聞く」「読む」「書く」能力の習得と使用に著しい困難がある（小学校低学年の児童と同じ水準の）私。体育におけるあらゆる運動が著しく苦手だった私。そんな落ちこぼれにもできることと言えば、某有名国立大学大学院の博士課程に合格し、学術論文を読んだり書いたりすることと、スポーツの国内選考会で優勝し、世界大会の日本代表になることぐらいでした。「障害って一体何だろう？」とあらためて問う機会に、いかがでしょうか。 ～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～ 第二話のあらすじ：「身体性が男性で、恋愛・性愛の対象が女性」という、傍目からはごく普通の男性にしか見えない、結婚もできるし子作りもできる私。しかし実生活では、レズビアンのトランスジェンダー（身体性は男性、性自認は女性、恋愛・性愛の対象は女性）といった複数のマイノリティ性を持つ人々の存在が世間ではあまりよく知られていないために、その稀有な生きづらさを気軽に相談できる相手がほとんどおらず、一人で思い悩むこともあります。
⑫小山祐介（コヤ）	鬱	どんな生き方もあっていい～うつで悪いか～	システムエンジニア時代、超過労働(残業 100 時間以上)やパワハラ(罵詈雑言・打刻禁止指示など)により 24 歳で鬱を発症。現在は「みんなの居場所を創りたい！」という想いからレンタルスペース運営をしている企業に勤めつつ、「#どんな生き方もあっていい」をキャッチコピーにイベントやアート活動をしています。小説家を目指した過去もあり、#余白 と #無駄 を愛する #便器男子 です。 #フリー素材 なのでお気軽にどうぞ。
⑪こばやしたくや	児童発達支援	学校/園を外から支える	教員志望で学芸大に入学し、今は「児童発達支援」の仕事をしています。発達に凸凹のあるお子さんが自分らしく生きるための支援を、毎日試行錯誤しながら行っています。どんな仕事なのか、日々どんなことが現場で起こるのか、この仕事に就くにはどうしたらいいのか、などなど、当日お会いした方とのやり取りの中で最適な話題提供ができたらと思っています。学芸大の卒業生でもあるので、その視点でもお話しできることがあればぜひ！
⑬瀬川　知孝	学校外の教育支援	教育と福祉の真ん中で働く－ユースワークとは何か？	現在、カタリバという NPO で働いています。学芸大学 A 類国語科の出身で、学生時代はゼミと軽音サークルでの活動に熱を注いでいました。卒業後は 4 年間教師として働き、その後カタリバに転職。文京区の中高生向け施設 b-lab(ビーラボ)にて、「ユースワーク」に取り組み始めます。おそらくユースワークという言葉には聞き馴染みがないでしょう。安心できる居場所と、やってみたいに挑戦できる機会をつくるこの仕事を軸に、お話しします。

＊　長谷川留理華さん、アミールさんは、都合により、キャンセルとなりました。

東京学芸大学ヒューマンライブラリー2018

2018 年 12 月 16 日

利用登録書

利用登録書は、「生きている本」に気持ちよく話していただくために、読者の方全員に記入をお願いしております。プログラムの「利用上のお願い」をお読みいただき、同意いただけましたら、下記に必要事項の記入をお願いいたしております。（＊のアンケート事項は回答は自由ですが、できる限りお願いします。）記入いただけましたら、本日借りたい「本」を選んで、下に記載し、貸し出しカウンターにご提出ください。「予約票」をお渡しします。ご記入いただきました利用登録書の個人情報は、本イベントの登録とその後の報告書作成・案内送付の目的以外には使用いたしません。よろしくご協力お願いいたします。

氏名（ふりがな）：

ご職業（ご所属）等：

東京学芸大学の方：学生（専攻・学年　　）教職員（　　）

東京学芸大学以外の方：学生（学校名　　）、

教員・会社員・自営業・その他（　　）

ご住所：〒

連絡先（ファイルが添付できる e-mail アドレス。報告書や次回開催のお知らせを送ります）：

＊本日、このイベントをどのようにお知りになりましたか。（下記から○をおつけください）

大学内のポスター・チラシ、学内ポータルのお知らせ、友人・知人・先生からの紹介、

主催者の Web 情報（ニュースレター、メール、facebook など）、主催者以外の Web 情報、

学外のチラシ・ポスター（場所：　　）

その他（　　）

＊本日、このイベントに参加しようと思った動機や期待は何ですか。

ご協力ありがとうございました！

本日借りたい「本」のお名前をお書きください。

第 1 回　12:45-13:15（　　）、第 2 回　13:30-14:00（　　）

第 3 回　14:15-14:45（　　）、第 4 回　15:00-15:30（　　）

第 5 回　15:45-16:15（　　）

全体交流会　16:30-17:30　（参加・不参加）

当日写真

受付（N 棟 3F）

情報演習室（堀口昂誉）

多目的室（南＆アイリーン）

N313（万里）

N313（山口通）

N313（畑野とまと）

N304（小山）

N304（瀬川）

N304(小林)

全体交流会

交流会後の記念撮影

当日までの活動

4/14（土）「生きている図書館　第 13 章」（川口キュポラ）に参加。
5/26（日）国際交流合宿（清里高原）で、10 冊の「本」でヒューマンライブラリー開催。
6 月　東京学芸大学平成 30 年度地域連携事業に申請し、採択。予算 10 万円が配分。
7/18（水）昼　実行委員会立ち上げ準備会　…　企画概要、テーマ、日時、スケジュール、準備などを話合い
8~9 月　「本」の決定、打ち合わせ
8/4（日）　第 1 回　ヒューマンライブラリー研修会　「ヒューマンライブラリーの作り方」開催
（場所：明治大学中野キャンパス、主催：日本ヒューマンライブラリー学会主催　）
8/26（日）第 4 回　せたがやヒューマンライブラリー―生きた本と対話する―（世田谷区男女共同参画センターらぷらす）参加。長谷川留理華さんと打ち合わせ。
10/21（日）日本ヒューマンライブラリー学会　第 2 回大会（場所：明治大学中野キャンパス）
ポスター発表「国際交流合宿でのヒューマンライブラリー」東京学芸大学。チラシ配布。
10/31（水）昼　学芸カフェテリアランチ講座「ヒューマンライブラリーへの招待」
11/25（日）明治大学ヒューマンライブラリー　～知りたい、をめくろう～　参加、チラシ配布。
12/5（水）昼　実行委員会会議　参加：岡、吉田、多々良、山田、奥田、池田
当日までの準備、スケジュール、役割分担の確認
12/14（金）3 限　直前準備

当日までの準備と当日の進行

・広報・宣伝…チラシ（1000 部）―学系教授会で全教員に配布。地域連携室を通して、地元自治体に配布。日本ヒューマンライブラリー学会、明治大学ヒューマンライブラリーで配布。ポータルで全教職員、学生にチラシを送る。大学 HP に掲載。ポスター…A4 版 100 枚（教育委員会を通して小金井市全域に貼る）、学内掲示板に貼る（N 棟２，３F、大生協前、学芸カフェテリアなど）。バナー１（N 棟前）、小金井市市報に情報をアップ。Facebook で本のあらすじをアップ。
・直前準備…タイムスケジュール A1 版印刷。弁当の手配（24 個）。案内板 2 つ借りる。「本」予約票、ネームカード、張り紙類、利用登録書、感想カード、当日プログラム印刷。お茶、お菓子の買い出し。

当日の進行

・10 時半　スタッフ集合、会場準備（張り紙、受付準備、会場机配置など）、受付シュミレーション
11 時正門前　弁当受け取り（賈、武）、11 時　武蔵小金井駅に出迎え（吉田）…山口さん
・　11 時半…「本」集合打ち合わせ(N301)、12 時までに弁当各自食べる。
・　外案内…N 棟前（11:50-12:30）（武）
・12 時…受付開始　利用登録書カウンター（3　）、貸し出しカウンター（2 ）
・12:45 以降…受付、タイムキーパー（各部屋）N310-N312, N313, N304、山口介助(N313 の担当)
・16:15-　会場片付け、交流会準備 N313（全員）―11 のテーブル作る、「本」と担当スタッフが座る
17:30-最終片付け（全員）　18 時までに解散

来場者数と内訳（利用者登録書情報）

● 参加者　総計　43 名―本 13、スタッフ 10, 読者 20

・読者内訳：学芸大生 4（院 1, 留学生 3)、他大学学生 2（立教大)、一般 14

・住所：東京都 15、埼玉 1、神奈川 1、千葉 1

・何で知ったか：先生、友人、知人の紹介 12、大学内のポスター・チラシ 3,主催者の web 情報 4、主催者以外の web 情報 1、学外のチラシ・ポスター1

● イベントに参加しようと思った動機や期待

- いろんな人と出会って、他人の経験をうかがうことです。
- めったに会えない人と会いたい！
- 前回の Human library で知らなかった問題を聞き、自分の世界はまだ小さいと気づき、今回も参加しようと思いました。
- 本（ヒト）から直接話が聞けること、他大学でのヒューマンライブラリーに参加経験あり。
- 自分自身の「これから」を考えるために、色々な人の生き方を聞いてみたいと思ったから。
- 興味があったので、参加しようと思いました。
- どんなものか見てみたかった。
- 自己啓発。
- 元々イベントについて知っていたが、知人からとても良いと聞いたので。
- ヒューマンライブラリーに参加するのは初めてなので興味がある。LGBT の人の話を聞きたいです。
- ずっと興味があったので。
- 自分は留学生として、日本ではこういう問題についてどうやって話したり考えたいのでしょう、と思ったからです。
- 様々な人の考えを知りたいです。人間の経歴は人によって違いますから面白いと思います。
- 友人から聞いて気になっていたため。
- 友達に誘われて。
- ゼミ活動で他者理解を研究しており、参加しようと思った。普段会えないような人と会ってみたかった。
- 本でヒューマンライブラリーの話を読み、興味を持ったから。
- 色々な方の考え方を知り、その中で新しいものの見方等を発見したかったため、参加した。
- 以前、朝の NHK ニュースで見て、どのような試みなのか興味がわいたため。

小山　祐介さんへ

- 今日は寒い中、大学に来ていただき、お話を聞かせて頂き、ありがとうございました。とてもパワーと元気を頂きました。ぼちぼちまた進んでいきたいと思います。寒い日が続きますので、体調を崩されませぬように。ありがとうございました。
- 「うつ」についていろいろ教えてくださってありがとうございます。私今年４月に来日し、大学院で勉強しはじめました。一人暮らしするのが初めてですので、最初慣れなかったことも多かったです。今小山さんのお話を聞き、「長期的な目標がなくても構わなく、大事なのは心と体が同じところにあること」と「選択肢が自己にある」というような話を大変感銘を受け、もっとリラックスして生きていきたいと思っております。
- とても分かりやすく、また楽しくお話していただき、有意義な時間となりました。小山さんのお言葉、とても心にしみいるものが、たくさんありました。どうしてもグッと力んで　しまうことの多い私、心や身体を悪くした経験から、自分自身の心地よさをもさく、ある程度のところにはたどりつけたかと感じていますが、やはり力んでしまいやすい体質、小山さんのやわらかな言葉で、ふと軽くなりました。ありがとうございました。
- 自分１人では思いつかない考えない様な事も直接（今日のように）会って話す機会があると考えられるのはとても良いけいけんでした。ありがとうございました。
- 「無駄」と「余白」すてきです。自分のことは自分で選べるし、むしろ自分にしか決められないのだなと、ぼんやりとあった考えを自覚できました。ありがとうございました!!
- 自身の職場も超過労働＋パワハラ職員がいたり、自分の中で言動をせばめてしまうことが多かったため「選択を多くする」そして「逃げる」ことの大事を聞けて、とても心がかるくなりました。
- ありがとうございました。

山口　通さんへ

- とても興味深くお話拝聴いたしました。パーソナルなエピソードなどもっと聞ければ嬉しかったです。
- “障がいとは個性”について質問させていただいた者です。自分自身の中で、その考えについてイマイチしっくりこなくてモヤモヤしていたので、山口さんがお話してくださったことで、本当の個性について考えることができました。ありがとうございます。
- 今日のように直接お会いして話を聞ける機会が有って良かったです。ありがとうございました
- 今日はお話を聞かせて頂き、ありがとうございました。障生の言葉の意味を考えさせられるひとときでした。障害を持ったとしても、社会的不利を受けるだけど終るのではなく、社会とともにいろいろくふうをして色々な方達が生活しやすい世の中になるとよいと思っています。今日山口さんと出会えて色々なお話をきけてよかったです。
- お話ありがとうございました。障害は個性かという問いで、障害であるがゆえに発生した不利益や状況が「自己責任」になってしまうのは違うのではないか、ということかなと解釈しました。お話ありがとうございました。

南さん・アイリーンさんへ

- お話ありがとうございました。実は以前ゼミでピナットさんのことを調べていた同期がいたので、活動とお名前だけは一方的に存知あげていました。今日、実際におふたりの雰囲気が大変素敵で、きっと活動もとて

もよい関係なんだろうなと思いました。私も細く長く、学習支援にたずさわっていけるよう、楽しみながらやっていきたいです。ありがとうございました（Salamat(^^)）

- 今日はお話を聞かせて頂きありがとうございました。今日はフィリピンの文化とかを少し知る事が出来、とても勉強になりました。色々な支援の事も少しですが知る事が出来、勉強になりました。ありがとうございました。
- 今日はとても楽しかったです。ありがとうございます。冬の中であたたかくなってきました。：）
- 単に言葉を学ぶ教えるだけでなくその後生活していく上でのサポートをされている。その必要がある事が知れてよかったです。

アイリーンさんへ

- 日本で日本語を学んでいる本人のお話が聞けてとても楽しくて勉強になりました。アイリーンさんのエピソードをさんこう、又はベースとしてこれからも日本話教えていきたいと思います。
- 子そだても、おしごとも、がんばっていらっしゃって、すばらしいです。えがおでファイト‼ありがとうございました。

みなみ　みちさんへ

- ボランティアで長年に亘って活動されていますね。私も「やさしい日本語」を広めたいと思っています。みちさんのお話から日本に来た外国人の、ことばだけでない色々な問題に接しておられることがよくわかります。今後も長くつづけて下さい。
- 今回はお話を聞かせていただきありがとうございました。日本語の先生にならなければ説明の難しい文法があるとか、日本人にはあたりまえなれいぎなど、日本ならではの文化を外国人に教える、理解してもらう事がかんたんではないけどお面白いとお話しで気付かせてもらいました。ボランティア活動、私もいつかやってみたいです。

万里さんへ

- とても気さくな人柄で、人生であったこと、今だから言える話を聞かせていただき、ありがとうございました‼「X ジェンダー」という言葉しか知りませんでしたが、万里さんの自分史を聞いて、こんな生き方もできるのかと、インターネットにもどこにものっていない話をきけたことが、1 番よかったです。なりたい自分になれるように、私も教員目指してがんばります。
- 性別とかそういうのではなく、何かを決めつけるのではなく、目の前の人をそのまま受け入れる大事さを感じれました。貴重なお話、本当にありがとうございました。
- お話し聞かせていただきありがとうございます。たまに「カテゴリーなんていらないな」と思うんですけど、マイノリティーの方たちが「自分はこれにあてはまるんだ」と思い、いここち良い自分を見つけられることができるので、今はあった方が良いんだなって思っています。
- 「自分のなりたい姿になればいい」
  x 数式の x ←何でも代入できる

ゆうとさんへ

- 今日は初めてヒューマンライブラリーに参加して、初めての“本”がゆうとさんでした。30 分があっという間で、やわらかい時間が流れていきました。今窓から日が差し込んできました。「ゆうとです」と挨拶されて、私は名前を口にできませんでしたが、私にもハンドルネームがあると、もっと fair だったかもしれないですね。あなたのお話を聞くだけ聞いて、私はあなたに fair であれたのだろうかと考えましたが、“本”

と“読者”という形に初めて触れることができたことに、まずは御礼申し上げます。パワポ分かり易かったです。まだ言葉が言葉の形になっていませんが、ゆうとさんは優しい“本”でした。Thank you so much！(^^)
私も自分に似合うヘアスタイル、いろいろチャレンジ中です！

- 教師であり、当時者である事を強みにして、生徒さん達と生活してください。よく知らなかった「LGBT」について丁寧に説明していただき、有難うございました。
- 学校現場の活等、なるほどと思いました。
- 今日はお話を聞かせて頂き、ありがとうございました。（テレビ）マスメディア等で聞く LGBT の情報より実際にご本人からお話を聞けたことは、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- お話しを聞かせていただきありがとうございました。私の国（ブラジル）と日本で LGBT はどのように見られていて、受け入れられている違いを気付くことができましま。ありがとうございます。
- 自分も教員なので、うちの学校でカミングアウトする人がいたら、保ゴ者や子どもたち、同僚はどういう反応をするのだろうと、考えていました。お話ありがとうございました。
- ゆうとさんはいい先生だと思います。学生の頼りになります。今日、様々な話を教えてくれて、ありがとうございます。

こばやしさんへ

・お話ありがとうございました。持続可能な福祉の提供のために事業化するべきではないか、という議論は「金銭＝欲」「福祉＝無欲」のイメージから拒否されがちですが本当に大切なことだと思います。

お　話きけてよかったです。ありがとうございました。

堀口さんへ

・この前に、ろう者や手話に関するお話を伺ったことがなかったので、初めてこういう話を伺っておもしろいと思います。特に手話を媒体として芸術（ダンサーや劇など）を伝えることができて、さらに脱出ゲームをするのもすごくおどろいておもしろいです。簡単な手話もいくつか教えていただきました。大変貴重な経験だと思います。
・楽しかったです。表情豊かで、明るいーこれがろう者の特徴、良い所だと思います。聴覚障害者への差別も少しずつ改善されていくようですが、まだまだ「別世界」のことと思っている人が多いです。もっと良く知ってほしいと思います。
・初めてのろう者の方の話を聞きました。”芸術””文化”という言葉に魅力を感じました。ろう者のかたにしか分からない芸術や文化があるのではないかというのを思ったのと、今までは「分からないだろうなあ？」と勝手に思い込んでいた世界ですが、分かろうとすることが大切なのではないかと感じます。
今回お話を聞けて本当に良かったです。短い時間でしたが、何か自分の世界がもっと広がっていくのかなあと感じました。本当にありがとうございました。
・直接会って時間を共にした事、今日のような機会があって知れたのがとてもステキでした。
・すてきなお話ありがとうございました。手話にも触れられ、教えて頂きありがとうございます。
手話の芸術、伝わりました！楽しい時間に感謝。

やすよ＆きまさんへ

・なかなか聞くことのできない話が出来て良かったです。

色々な方の話が聞けそうな日になり参加して良かったです。

・お笑い芸人のように面白く息ぴったりなお２人のお話とても楽しく聞きました！ありがとうございます！
言葉で伝えても伝わらないことがあるなか、伝え合えるって素敵なことなんだなと思う一方、なんで伝わらないことがそんなにあるんだろうとも考えて悲しい気持ちももってたり。
やすよさんのことが更に知れて、暖かい２人と話せて楽しかったです！
・ふたりのかけあいが素敵でした。言葉を通じて分かり合えたり、うまくいかなかったり・・・。そういったコミュニケーションひとつひとつを積み重ねていくのがいいのかなと思いました。
・お二人の話はとても良かったです。

Hillary さんへ

- とてもわかりやすく理路整然とお話頂き、理解の深まった有意義な時間となりました。とても明朗快活な印象を受け、その話し方やお姿に元気をもらいました。ありがとうございます。
- お話ありがとうございました。実体験のことをたくさん伝えてくれてすごくたくさん知ることができました。なみたいていじゃない努力と自分なりの研究を続けてこられてきたとすごく感じました。ありがとうございました。
- 「発達性協調運動障害」と「学習障害」のことについて、たくさん紹介してくださってありがとうございます。Hillary さんが自分の困難や不自由な所を克服するために、一生懸命努力してきたことと、同じく「発達性協調運動障害」の子どものために、教科設計を工夫なさってきたことを大変感銘を受けました。私は現在「外国にルーツを持つ子ども」への日本語教育について勉強しています。今後「外国籍こども」のみならず「学習障害」の子どもの一助となりたいと思います。

「本」アンケート集計結果

回答者数：9 人

Q1.「本」として参加した回数は？

1. 初めて　2 人、2. 2 回目　2 人、3. 3 回目　3 人、3. それ以上（　9 回目 1 人　）

Q2.対話時間 30 分の長さについてどう思いますか。

1. ちょうどよかった　6 人、2. 少し短かった　3 人、3. 少し長かった　0 人

Q3.読者から答えにくい質問を受けましたか？

1. いいえ　8 人、　2. はい　0 人

Q4.　「本」をしての感想はどうでしたか？

- 早めに借りて（読者）が集まってきた回は心落ち着けましたが、なかなか借り手が現れなかった回は、直前まで何となくさみしい感覚を覚えていました。ただ、第 1 話、第 2 話の両方を読んでくださった方が 2 名もいらっしゃって、うれしく思いました。
- 毎回参加するたびに、元気をいただけます。うれしい限りです。
- 大学で読者の色彩が違うなあと感じました。かなりフランクな方が多く、質問も気軽にしてくださる方が多かったです。今勤めている企業に興味を持ってくださる方もいらっしゃり、嬉しい限りでした。「〇〇説明会をしてもいいかも？」とヒントをもらった気がします。
- アイリーンさんといっしょに参加して、今回はフィリピンの学校についても話してもらいました。参加者の 1 人がそれをとても喜んでくれて良かったです。2 回目だったので準備ができて良かったです。
- 楽しめました。一方的に話すことはほぼなく、質問などに答えていく形式でした。みんなも楽しんでくれていたら幸いです。
- わきあいあいと話せたので、予想以上に楽しめた。予想以上に興味を持って皆さん足を運んでくださっていたので驚いた。
- 毎回、有意義な時間をありがとうございます!!　読者の方、スタッフの方、皆様とてもフレンドリーでいつも楽しい時間を過ごさせていただいています。ありがとうございます。
- 質問時間の確保がやっぱり難しい。（オーバーしてしまう）

Q5. .HL の対話の形式や運営に関する改善点などはありますか。

- 懇親会への参加率を高めるための何らかの手立てが必要だと感じましたが、具体的な手立てが思いつかなくてすみません…。
- スタッフボランティアの方々が立場を逆転して「本」役となる機会が事前、事後のいずれかであると、「本」役とスタッフとの交流が深まりそうでよいと思いました。
- 第 1 話、第 2 話の 2 部構成とした今回の取り組みは「本」の作者のアイデンティティに多面的に触れることのできる良い形式のように思いました。
- 寒いです。運営はスムーズだったと思います。
- 部屋の暖房が効いていると嬉しいです。。。読者の皆様も寒そうでした。また資料やパソコン使用が可能であるならば事前に教えていただけると助かります。あと少し耳にしたのですが、学生の方々にもっとお仕事を

ふってもよいかと…。みんな仕事をやりたそうでした。

- 1 回目は面接のような対面席でしたが、今回は円卓で皆一緒に話が出来た感じで楽しかったです。
- Thank you カードもらってない人がいました。
- 正面からポスターとか貼ってあげると、来場者にやさしいと思います。
- 対話始まりの合図もあればうれしいかなと思います。
-

Q6. また、HL に「本」として参加したいと思いますか。

1. 是非参加したい　3 人、2. できれば参加したい　2 人、 3.参加したくない　1 人

（その他：スタッフとして参加したい　1 人、読者として参加したい　1 人）

第３回　ヒューマンライブラリー実行委員会　反省会議

日時：2018 年 12 月 19 日（水）12:00-12:50 岡研究室
参加者：岡、吉田、多々良、山田、池田

１．参加者　総計　43 名―本 13、スタッフ 10, 読者 20
・読者内訳：学芸大生 4（院 1, 留学生 3)、他大学学生 2（立教大)、一般 14
・住所：東京都 15、埼玉 1、神奈川 1、千葉 1
・何で知ったか：先生、友人、知人の紹介 12、大学内のポスター・チラシ 3,主催者の web 情報 4、主催者以外の web 情報 1、学外のチラシ・ポスター1
★　学芸大生の参加が少ない。今後、読者を増やすための工夫が必要。

２．日程について
・当日、S 棟で別のイベントがあり、N 棟はサークル活動も行われていたが問題はなかった。

３．場所について
・控え室が N310 に変更になったが、ちょうど良い大きさで快適であった。
・N304 が、「本」3 冊が入ったが、貸し出しカウンターともしたため、常にドアがあいており、寒かった。「本」の方にかぜをひかせてしまった。「本」の対話室と受付、読者控え室は別にするべきであった。

４．「本」の設定について
・長谷川さん、アミールさんと、在日外国人の方がキャンセルになったので残念だった。在日外国人カテゴリーは今後もっと充実させたい。⇒留学生の活用
・3 回目の人もいたが、そろそろ読者あるいはスタッフになりたいと言われた。積極的にスタッフにもなってもらい、「本」も適宜入れ替わりが必要である。

５．当日時間配分について
・1 回目の時間を前回より遅らせたため、ちょうどよかったと思う。
・休憩時間 15 分はちょうどよかったと思う。

６．広報・宣伝について
・学内のポスター、チラシ、ポータル、HP は目立っていたか。
　ポータルは学生はあまり見ない。1 週間前など直前にも入れた方がいい。
・Web 情報は目立っていたか。Facebook など。
・学外のポスターや宣伝や有効に行われたか。
・早めに実行委員会を設定して、スタッフが大教室の授業でチラシを配るとか、学科のラインで送るなどしたら、もっと学内に宣伝できる。

７．当日の運営について
・部屋の温度差が激しい。

・本を借りるとき作者名を記入なのか、タイトルを記入していいのかわかりにくかった。
・Thank you カードは　読者にあらかじめ渡して、書いてもらい、本に渡して、後で回収ということだったが、本から回収が少なかった。
・貸し出しカウンターで、予約票を書くのと、タイムスケジュールの〇を塗りつぶす連買いがうまくいかなかった。

8．その他
・前回、迷惑行為があり、パンフレットに、迷惑行為があった場合、退場してもらうことが・あると明記した。結局、前回の迷惑行為をした人物は来なかった。
・読者アンケートをとっていなかった、読者からの感想を聞くべき。

9．今後の予定
・　報告書の作成　スタッフの感想文、アンケート・メッセージカードなどのデータの打ち込み（1/15 まで）→謝金有、1 月中の完成を目指す。
・　来年に向けて課題。春学期体験会をやり、実行委員会を早めに作っていく。本との事前学習会や懇親会を入れてもよい。学生主体の実行委員会へ。

読者の感想文

ヒューマンライブラリは初体験でしたので、とても行ってよかったと思います。しかも、最初のイメージとまったく違いました。なぜかというと、ゲストスピーカーと直接話せたり、質問聞いたりすることができて、非常に親しい感じがしたからです。私が参加したのは瀬川知孝さんのユースワークについて、ヒラリーさんの障碍者を持っている子供のための教育について、万里さんのエクスジェンダーについて、畑野とまとさんのトランスジェンダーについて、そしてゆうとさんのゲイの先生についての本でした。

一番思い出に残っているのは万里さんと畑野とまとさんの本です。日本であまりできないフランクな話していただいて、日本の LGBT コミュニティの実存のことがいろいろ解ってきました。スウェーデンでは自分のセクシュアリティかジェンダーを異常だから隠していると言う人が少ないと思います。特にセクシュアリティについてはほとんど皆はオープンにしています。

しかし、ゆうとさんの話を聴いたら、「スウェーデンは違うでしょう」と思ったのに、結局私の先生方々の中にゲイでオープンでいたことがないのです。絶対に誰かは LGBT に関る方だったはずなのに、知りません。もちろん、先生はそういうプライベートなことをあまり生徒たちの前に言いませんが、こういう話をすると生徒たちの前に言ったほうがいい気がします。なぜなら、生徒が自分もそうかもしれないと思ったら、近くにいる先生と話せることが大事と言うことです。

やはり、仲間がいると言うのは一番大切なので、ヒューマンライブラリなどのようなイベントも大切にしようと思いました。日本の一つの難しいところといえば、自由に話せない場合は多すぎると思います。建前と本音の文化の中に、どうやって自分の異常なところを見せたらいいのかとのことは、非常に悩むと思います。もう少し優しい社会を作っていきましょう。

生きている図書館

人間は昔から知識を後世の人たちに伝わるように紙に情報を記述して、本を作りました。知識を学んだり、情報を調べたり、便利にできるように貴重な本が集まる「図書館」が生まれました。それで、「図書館」というのは普通に「本でいっぱいところ」というイメージがします。しかし、この前は、「ヒューマン・ライブラリー」という活動を耳に入ってきました。それはなんでしょうか…

2018 年 12 月 16 日（日）に「ヒューマン・ライブラリー」活動を参加しました。私にとって、「ヒューマン・ライブラリー」とは、本の代わりに人間をデータベースとして人間の経験から知識あるいは情報を学ぶことです。その説明を考えてみれば、「人間の経験から学ぶ」ことは人間の最初の習得し方と同じと言えます。それに、ゲストの経験からの情報も本に書いてないことで、面白いと思います。

今回「瀬川知孝さん」「Hillary さん」「みち&アイリンさん」「畑野とまとさん」「ゆうとさん」という 5 人のゲストから話を聞きました。

「瀬川知孝さん」は、先生になった時にある学生が学校行きたくなくて、辛く過ごすのを見て、「中学生と高校生の居場所」を行い始めたそうです。瀬川知孝さんの話から日本の教育問題やそれらの問題の解決や色々な役に立つ活動についてのことを学びました。次に、「Hillary さん」の話を聞きました。「Hillary さん」は趣味としてマラソンに参加する体が弱い人で、学習障害を持っているが、大学院を卒業した人だそうです。Hillary さんの話から、最後まで頑張ればなんとなく成功になる点で、体より心が大切だと学びました。

それから、外国人に日本語を教える日本語学校から来た「みち&アイリンさん」の話を聞きました。「アイリ

ンさん」は日本人と結婚しているフィリピン人です。アイリンさんから異文化の点も言語の点も日本でつらく生活する経験が分かりました。自分も外国人でアイリンさんの気持ちがよく分かって仲良くなりました。そして、LGBT を認めない日本社会の中で生活しているトランスジェンダーの「畑野とまとさん」から世界の LGBT の情報ととまとさんの性転換プロセスの経験を学びました。最後に、ゲイで、高校の社会の先生の「ゆうとさん」の話を聞きました。「ゆうとさん」は LGBT の学生たちや性別に関する問題がある学生たちの相談役として相談に乗ったり、LGBT についてを正しく分かるように活動を行ったりしています。

ゲストの話は本の内容のようだと見られています。それぞれの人は違う環境に存在していて、違う経験を持ちます。そして、それぞれに人はそれぞれの本みたいだと思います。

人を人として見る、ユートピアなのか

ゲイ、トランスジェンダー、X ジェンダー。12 月のヒューマンライブラリーで数え切れない問いを立てたいくつかの言葉。なぜ自分であることは問題なのか。なぜ自分を受け入れるために時間がかかるのか。そもそもわからないから時間がかかるのか。自然なことをなぜ知らないのか。まるで、無限に問いを呼ぶ問い。まだ何も理解ができていない世界なんだと思える、そして、その世界の一人として私はどんな努力をしているのか。さらに自分の存在も疑問に思う。

LGBT に関する「本」を最初に“読んだ”のは、**ゆうとさんの***教室だけじゃない～とあるゲイの先生の話。*教室の中には一人以上はいる LGBT の子供、その割合はよく言われるかもしれないが、職員室、オフィスや病院などの中では言われていないとゆうとさんは語っていた。それを聞き、とても大きな違和感を感じた。ブラジルでは性差別に関わる暴力は日本よりよっぽど多いはずなのに、職場先ではカミングアウトする割合は、それらの（暴力的の）差別が少ない日本と比べると多いと気がしたからです。

万里さんととまとさんのお話を聞いてからも、日本ではやはり違っている人は変にみられ、手を上げなくても、見下された視線が十分傷ついたり、日本社会のフォーマットに合わなければいけない社会だと思いました。

でもそれ以上に彼らは精神的に強くて、自分のアイデンティティを誇りに思い、顔を下げないで、前を向いている力があるとも思いました、そして LGBT に次ぐ 13 の字は余計ではなく、自分がまだ何かわからない人が自分を見つかるためにあるんだと理解しました。マジョリティでもマイノリティに当てはまるんではなく、自分のアイデンティティを知ることだと。

だが、日本社会だけではなく、世界的に人間の性格から人を知るのは少ないが、その日は訪れるのか。それともユートピアなのか。ジェンダーや、色、宗教も関係なく人と接することができて、差別のない世界は来るのはないかもしれないが、それに向かい、ここで気付いたことを、どこにでも伝えるのがヒューマンライブラリーに参加した方々の役目ではないか。良い本を読むと、宣伝するのが自然。

スタッフの感想文

第３回ヒューマンライブラリーを終えて

吉田　香

昨年の第２回ヒューマンライブラリーに引き続き、スタッフとして今回のヒューマンライブラリーに関わることが出来たことを嬉しく思っています。まずは、参加していただいた本の方々や読者の方々、企画の中心となった岡先生や他のスタッフの方々に感謝申し上げます。

今回のヒューマンライブラリーでは、前回よりも本と読者が近い距離で話をしたり聞いたりすることが出来たのではないかと感じています。「フランクに話すことが出来た」という感想もあったように、笑顔の多いリラックスした雰囲気の中で対話をしてもらえて、良かったと思っています。

ヒューマンライブラリーの魅力は、何といっても本との対話にあります。実際に本の方と話をすると、それぞれに違った「生き様」を知ることが出来ます。そうした「物語」の中には、紙の本で読むのとは違う、メディアで伝えられるのとも違う語りも多々あり、対話をするたびに、人とじかに向き合うことの大切さを、改めて感じています。私個人としては、対話を繰り返すうち、「障害」や「マイノリティ」といった言葉は、その人のほんの一部分を表現しているに過ぎないのだと気づきました。そうした言葉だけにとらわれることなく、その人の持つ多様な側面に目を向けていかなければならないと感じました。自分が知りたい情報にすぐ手の届く時代ではありますが、だからこそ、こうした時間をこれからも大切にしたいと考えています。また、スタッフとしてヒューマンライブラリーを作り上げていく中で、一人でも多くの人にそうしたことを感じてもらえていれば、とてもうれしく思っています。

運営の点では課題も多く残りました。空調の調整が十分でなかったことや、案内が分かりづらかったことなど、今回の課題を次回以降の反省材料としていきたいと考えています。ヒューマンライブラリーが作る温かい空気を大切にしながら、これからも東京学芸大学でのヒューマンライブラリーがますます発展していくことを、願っています。

ヒューマンライブラリー(2018)を終えて

日本語教育専攻 M1

多々良 幸子

今回初めてヒューマンライブラリーにスタッフとして参加させていただきました。そして、この機会に初めて、「人を本に見立てて読者に貸し出す図書館」というヒューマンライブラリーの存在を知りました。障害者や社会的マイノリティを抱える人との相互理解を深めることを目的とされていて、私は色々な人の話を個人的に聞くことができる場として理解しました。実際この「個人」というところが大事だと思います。個人として話をする・理解していこうとするのが、ニュースのヘッドラインでは分からない部分を埋める一つのツールであると考えます。ネットで顔を会わせずやりとりができる今日では、直接やり取りができることは貴重でしょう。また、「図書館」なので様々な本があり、自由に読める。色々な分野の人が自由に関わりを持てる、繋がりの可能性を感じます。

この第３回ヒューマンライブラリーでは、１・２回から関わった本の方や新しい方を迎え「突っ込んだ意見のやり取りができた」と言われるほど活発な意見交換ができたようです。私も１回だけお話を聞くことができ、自分の視点では分からない気づきや、新しい芸術への試みなどマイノリティの他分野の発信についてなど大変興味深かったです。また全体を通し、話すことが本にとって活力や癒しに、読者には新たな知識や考えの発見になっ

ていると感じました。スタッフとして一つ残念なのは、もっと多くの方に参加していただけたらもっと良かったのではないかと思われたことです。受付で説明をしていてもヒューマンライブラリーが初めてではない方が多いと感じたので、新しい動員数を増やすことは今後の課題なのかもしれません。

今回このような企画に微力ながらお手伝い出来て良かったと思います。今後第４回・５回と続き、多くの方に来ていただける出会いの場となる様願っています。ありがとうございました。

ヒューマン・ライブラリーを終えて

初等教育教員養成課程数学選修３年
池田　薫

１　はじめに

私は障がい学習支援室のサポーターとして、普段は聴覚障がいをもつ学生の情報保障（ノートテイク）をしています。今回は、主にヒューマンライブラリーの“本”である視覚障がいをもつ山口さんを支援するスタッフとして、ヒューマンライブラリーに参加させていただきました。そもそも私がこの企画を知ったのは、支援室からの一斉メールで、ヒューマンライブラリーの宣伝が流れてきたためです。「ヒューマンライブラリーってなんだろう。人の図書館？だれかが講演会するの？」と思っていました。恥ずかしながら、参加を決めてからもしばらく、“本”の方全員のお話を順番に聞く講演会だと思っていました。まさか“本”を予約するシステムとは…

２　参加動機

私がヒューマンライブラリーに参加したいと思った理由は､LGBT を始めとする性に関する“本”と多く出会えそうと思ったからです。そもそも性に関心をもったのは、大学の授業の家庭科研究で、「人の性は色のようなもの。好きな色として思い浮かべる色と全く同じ色は、このグラデーションの中にしかない。同じように、性も１人１人異なる。」という講義に感銘を受けたからです。LGBT などのマイノリティーと言われる方々を、ノットマイノリティーと感じるために、会いたい、参加したいと思いました。

３　スタッフとしての感想

視覚障がいの方のアテンドをするのは今回が初めてで、うまくできるか不安もありました。手探りながらも、「歩くのは早くないですか？」「ここにコードがあるので気をつけてください」など、コミュニケーションを取りながらのアテンドを心がけました。山口さんは心優しい方で、「(アテンド）上手だよ」と声をかけてくださいました。段々と、どのくらいのペースで歩くのか、教室のどこを通るのか、視覚情報をどう伝えるのか（選ぶ飲食の種類と位置、読者の見た目（年齢など)、手話、読者の方が来た、など）がわかるようになり、よりコミュニケーションを取ることができました。また、元高校教員という山口さんのお話はとても面白く、休憩時間も高校の話や政治の話など、楽しい時間を過ごしました。

４　読者としての感想

スタッフとしての仕事の合間に、3 人の“本”と出会いました。学習障がいながらも論文を読めるまでに、運動障がいながらも歴史に名を残すマラソンランナーになるまでになったお話。自分の性について迷い、葛藤し、やっと居場所を見付けたお話。LGBT をカミングアウトする怖さと安堵感を体験したお話。「障がいは乗り越えるものではない」「性とか関係なく、１人の人間として見てほしい」「なりたい自分になればいいんだ」「教室に１，２人 LGBT がいると言われる時代、なぜ誰も職員室にいると思わないのか」当事者の方々の生の声を聞き、お話ししたことで、障がいやジェンダーを自分に引き寄せて考えることができました。「LGBT はテレビの中の人」というイメージを変え、身近な存在にすることができました。だからこそ、難しいと思ったこともあります。自分

とは違う考え方に触れる機会は他にもあるというのに、ジェンダーに関しては、考え方を受け入れることはできても、理解が追いついていない感覚にあります。今回の“本”との出会いをきっかけに、LGBT をはじめとするマイノリティや社会問題に目を向けていければと思います。

５　おわりに

ヒューマンライブラリーには、様々な出会いがあります。もちろん、“本”の方とは、自分の興味関心のあることについて貴重なお話を聞くことができるという出会いがあります。同じ時間に“本”を借りた「読者」とは、その話題について他の読者はどう感じているのか、なぜそう考えるのか、年齢や国境を越えて話ができるという出会いがあります。今回、スタッフとしてそれらの出会いを経験し、より多くの人にヒューマンライブラリーを知ってほしいと思いました。

東京学芸大学ヒューマンライブラリー2018 感想 スタッフ・奥田木の実

年が明けてしまってから感想を書いています。 あの日はとてもとても寒かったのを覚えています。 開催の少し前に飛び入りでスタッフとして 参加させていただくことになり、 今思えば今回参加して本当によかったなと思います。 感動したのは、学科の後輩の中村さんが手話を使って、 堀口さんとコミュニケーションをしていたことです。 私は、今は手話ができません。 何かを見たらできるかもしれませんが 手話を使って会話をする人と同じようには会話できません。 手話はコミュニケーション方法の１つであるだけかもしれませんが 今の私にとってはすごく素敵に見えました。 そして手話がよくわからない、 目の前にいる人と話せない自分が恥ずかしかったです。

スタッフとして岡先生をはじめ、 自分以外のスタッフの方とお話できたのも とても楽しかったです。 参加していなかったら出会っていなかったと考えると 改めて参加できたことが嬉しいです。

私はお二人の方のお話をききました。 1 人目は、こばやしたくやさん（児童発達支援・「学校／園を外から支える」）です。 収入の話を伺ったときに、よくぞ聞いてくれた！と おしゃったことをよく覚えています。 この世の中に必要な仕事なのに 働いている人が幸せに暮らせない収入だとしたら その収入は間違っていると思います。 NPO では多いことなのかなと思いました。

2 人目は、小山祐介さん（コヤ・「どんな生き方もあっていい～うつで悪いか～」）です。 私は自分がうつを患っているので、ぜひお話を伺いたいと思っていました。 うつの原因となった部活に戻るかどうか悩んでいるという相談をさせていただきました。 自分を変えるということと環境を変えるということは両方必要かもしれないという話を
していただきました。 大変なことがあるだけ人生に深みがあるものなのかなと思いました。 元気が出ました。 来年のヒューマンライブラリーでも 精神障害の方のお話が聞きたいです。

今回のヒューマンライブラリーは参加者が少なめだったと聞きましたが ヒューマンライブラリーは本当に良い会なので 来年以降、学芸大生も含めて参加者が増えて 生きることの多様性や人生の多様性を感じる機会を得る人が 増えてくれたら嬉しいなと思います。 ありがとうございました。

第三回ヒューマンライブラリーを終えて

多文化共生教育コース一年
山田茉由子

「ヒューマンライブラリー」、それは今まで耳にしたことのない、新しい言葉だった。人間の図書館とは何だろう。その答えを得るために、まずは前回の報告書を手に取ることにした。

表紙に書かれた言葉が印象的だった。『私の個性が「本」になる』、なんて素敵な言葉だろう。だけど分かるようで、よく分からない。ページをさらにめくった。そこには、ジェンダーの多様な在り方や外国人支援、教育問題から障害を抱えた生き方など、それぞれのテーマについて語ってくださる「本」の方達の姿があった。本を読んだ読者は何を感じたのだろうと想像が膨らむ。ぜひこの企画に関わりたい、そして私も読者として、多文化共生を学ぶ学生として、何かのヒントを得られたら。そんな思いでスタッフになった。

迎えた当日、「本」の方々が続々といらっしゃり、ヒューマンライブラリーが始まった。私はスタッフとして、また読者として、数冊の「本」手に取ることが出来た。これまでにない新しい教育支援や、自らの持つ精神的な困難、日本ではまだマイノリティとして扱われる、自身のセクシュアリティについてなどなど、、。どれも決して楽な話ではなかった。だが、スマホで検索して得たどんな情報よりも心に響き、そして、社会を構成する一人として、自分がこれからできることは何だろうと考えさせてくれた。多文化共生って、複雑だ。

第三回目の開催を無事に終え、こうして今振り返っている。次回は学内の広報活動をさらに盛んにして、より多くの人に来て頂きたい。日常生活ではめったに出会うことが出来ないない経験である。ヒューマンライブラリーで、多くの人が「本」を通し、現代日本の多文化共生へと続く道のりを考えるきっかけを得られればいいな、と心から思う。

_____つい先日、新聞で読んだある一説が思い出される。「社会の壁を壊すのは大変。でも心の窓を開けることはできると思うのよ」、オノ・ヨーコの言葉だ。名曲イマジンを生むきっかけとなったこの言葉は、ヒューマンライブラリーを行う意義の根底にあるものと通じているのかもしれない。

今回私にスタッフの仕事を与えてくださった岡先生をはじめ、この企画を通して出会えた全ての方に感謝します。今後東京学芸大学で開催されていくヒューマンライブラリーの益々の発展に、微力ながら私も力添えさせて頂きたいです。
ありがとうございました。

ヒューマンライブラリーの感想

賈世萍

12 月 16 日、スタッフとして第 3 回東京学芸大学ヒューマンライブラリーに参加させていただきました。正直に言えば、日本に来て以来、これは初めて日本の大学にある活動に参加することで、非常に貴重な経験だと思います。

スタッフとして、タイムキーパーの役割以外、私も山口さんの案内人として頼まれました。外国人の私は、普通の日本人とコミュニケーションすることなんてすごく緊張しているので、全盲の日本人を案内することは想像さえできませんでした。やるしかないと思って、意外と順調でした。山口さんは盲人ですが、心は全然弱くない。逆に、山口さんのユーモアと前向きな性格を感じました。話しているうちに、全盲というグループは思った以上にいろんなことができるということがわかりました。しかも、高校の教員も務めることに感心したました。

山口さんの他に、ろう者の堀口さんの話も伺いました。「ご飯ができたら、ろう者家族の間にどうやって伝達するのか」「ろう者たちはダンスもできること」「手話で脱出ゲームを挑戦すること」などいろんな面白いことを聞きました。ろう者たちの生活を少し理解した上で、ろう者とのコミュニケーションも体験できました。まだ、「こんにちは」「見ている」「ありがとう」など日常的な言葉の手話も教えてもらって、非常に有意義な時間を過ごしました。

今回のイベントに参加することで、かつてない経験を積んできました。今までの私は自分と同じような人と接触したばかりで、多様な人への理解や彼らへの関心を持ったことはなかったです。今回のイベントを通して、なんだか自分も多様な人と接触して、違う背景や経験を持っている人とコミュニケーションしてみたいと思い始めました。「本」の方々も、他人とは違う自分を私たちにシェアしてくださって本当に心から感謝しています。また機会があれば、他の「本」の話も伺いたいと思います。

ヒューマンライブラリー　感想

武　雅雯

スタッフとして今回のヒューマンライブラリーを参加させていただき、とても嬉しく思います。今回のテーマは「『本』と出会う、世界と出会う」であり、外国にルーツを持つ「本」がいらっしゃるという意味だけではなく、様々な「本」を出会うことによって、今まで見聞きしたことなく、なじみのない領域へ自分を広げるとも意味すると思います。

今回、「アブノーマル」というようなラベルをつけられてき、自分の「普通ではない」ところをどのように認識し、受け止めているのかを語る「本」をお読みいただき、大変勉強になりました。最も印象に残っているのがある「障害」と思われている「本」に書かれている「見方を変えれば、普通ではないところやできないと思われるところが自分のユニックな長所になれる」という言葉でした。その「本」に、他の人が普通にできることが自分はできなく、「怖い」「つらい」から「もがい」「適応」を経て最後「これも私の一部」まで意識変化したプロセスを書いてあります。（病気による）学習や推論する能力が足りなかったら、何十回も何百回も繰り返し練習します。運動が苦手だったら、何十キロのマラソンをチャレンジし、歩き切ります。その超人的な精神力と強い上昇志向に感銘を受けました。

自分は外国にルーツを持つ子どもの日本語教育について勉強しており、そのような子どもたちの語学力や学力が「問題」視されている一方とも言えます。しかし、本に書いたように、外国にルーツを持つからこそ、「両言語どっちでも不十分」「認知力不足」というように思うより、「……もできる子」「……も聞いてわかる子」というように彼たちのユニックな長所として前向きに評価するのも良いのではないかと思います。もちろん外国籍の子ども全員がその本のように、立派な精神力とを持つのを期待しているのではなく、子どもたちも自分らしいハッピーエンディングを迎えるように、私たちのような日本語教育の支援者が適切な支援を提供するのが必要であるのではないかと思います。

今回のヒューマンライブラリーを参加することは、様々なストーリーと経験談を聞くことにより、自分の幅を広げる非常に良いきっかけになります。ヒューマンライブラリーに参加させていただきありがとうございました。